



Title	黎明期日本社会党の地方組織（2・完）：「日本社会党北海道支部連合会期間報告」（1948-1951）の紹介
Author(s)	前田, 亮介
Citation	北大法学論集, 73(1), 175-213
Issue Date	2022-05-30
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/85636
Type	bulletin (article)
File Information	lawreview_73_1-05_Maeda.pdf



[Instructions for use](#)

黎明期日本社会党の地方組織（2・完）

——「日本社会党北海道支部連合会期間報告」（1948-1951）の紹介——

前 田 亮 介

[注記]

- ・ 本稿は北海道大学附属図書館北方資料室所蔵の「日本社会党支部連合会期間報告 昭和23年⇔25年」を全文翻刻し、紹介するものである。
- ・ 今号掲載の（2・完）では、1950年1月から51年1月までの「期間報告」を翻刻している。1948年から49年の「期間報告」については、本誌前々号（第72巻第5号）に掲載された（1）を参照。
- ・ 冒頭の3つの報告は、時系列に沿って実際の配置から整序しなおしている。この他の凡例は、（1）と同様である。
- ・ 当初は本稿末尾に「解説」を付す予定だったが、分量が長大になったため、いったん翻刻部分だけで連載は完結させ、本誌次号（第73巻第2号）以降に別途、論文「社会党道連における政党建設1945-1952——「日本社会党北海道支部連合会期間報告」によせて」として連載する予定である。

日本社会党北海道支部連合会期間報告

1949年12月29日より1950年1月28日に至る期間の日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の通り報告致します。

記

[1950年] 1月2日〔月〕

横路〔節雄〕書記長は赤平町豊里礦業所の争議円満解決斡旋のため赤平町に出

張す。

八時より党員会議を開催し、□〔各カ〕地労委裁定案をめぐる組合大会に対する党の態度として次の如く協議決定する。

- ① 地労委の裁定案を呑んで争議を打切れ。
- ② 会社が裁定案を呑むと同時に争議を打切る。

組合大会は2日〔午前〕一〇時より開催される予定の所、流会となり、3日にあらためて行はれる事となつた。

1月3日〔火〕

〔午後〕一時より組合大会が開催され、横路〔節雄〕書記長は大要左の如きメッセージを送る。

「今回の争議の根本的原因は吉田〔茂〕第三次内閣の成立に伴ひ、補給金の削減、メリット制の採用、配炭公団の廃止に依り炭礦に対する金づまりが起つたのが遠因である。地労委裁定案について今後の労働協約には人事権の項について相当考慮の要あり、この考慮如何によつて争議の早期解〔決〕があるのではないか」と強調した。

1月8日〔日〕

第十回執行委員会を開催す。三笠支部 菅原英三郎他十八執行委員、傍聴者三名参集す。協議及び決定事項は左記の通りである。

(一) 第五回党大会出席代議員決定の件

本部より割当てられた代議員は八名で左の如く決定す。

荒〔哲夫〕委員長。横路〔節雄〕書記長。境一雄。和田敏明。櫻井義郎。黒川留雄。小鴨義雄。永井勝次郎。オブサーバ〔一〕として蕙沢堅次。

(二) 党綱領審議委員会報告の件 —— 境一雄。

(三) 農業綱領審議委員会報告 —— 喜多幸章。

(四) 第五回党大会提出道連動議について

- ① 労農党との合同について —— 蕙沢政治局員
- ② 警察條例設置について —— 山内〔栄治〕執行委員

1月14日〔土〕

荒〔哲夫〕委員長、横路〔節雄〕書記長、党大会出席のため出発す。

1月16日〔月〕

社会党第五回大会開催さる。

出席者 荒〔哲夫〕、横路〔節雄〕、境〔一雄〕、和田〔義明〕、櫻井〔義郎〕、黒

川〔留雄〕、小鴨〔義雄〕、森〔三樹二〕（永井勝次郎事故にて出席不可能、森が出席す）

大会運営委員として 櫻井義郎

資格審査委員 小鴨義雄

運動方針審議委員 境一雄

議案審議委員 和田敏明

規約改正委員 黒川留雄 以上決定す。

当日の議事として議長、副議長を選出す。

1月17日〔火〕

大会第二日

片山〔哲〕委員長挨拶

鈴木〔茂三郎〕書記長 経過報告

佐々木〔更三〕組織部長 組織報告

中崎〔敏〕会計 会計報告

三宅〔正一〕、赤松〔勇〕 国会共闘報告

以上に対して質問として北海道より和田敏明氏行ふ。

「講和会議に対する全面講和^(ママ)永生中立についての党の態度に就いて」

1月18日〔水〕

大会第三日。各議題についての提案説明あり、それ〜委員会附托となる。

1月19日〔木〕

大会第四日。各委員会より経過報告あり、大会これを承認す。午後六時、片山〔哲〕委員長声明についての釈明あり〔カ〕後、一部退場する者あり。北海道はそのまゝ残留。鈴木〔茂三郎〕書記長、和田〔敏明〕会計についての信任投票を行ふ。木下源吾（道選出参議院議員）を中央執行委員に選出。荒哲夫、横路節雄、境一雄を中央委員に選出す。

1月20日〔金〕

新中央委員会開催さる。

1月22日〔日〕

衆議院議員会館にて荒〔哲夫〕、横路〔節雄〕、木下〔源吾〕、若木〔勝蔵〕、正木〔清〕、森〔三樹二〕、斎藤〔正志〕（道会議員）、佐藤〔吉次郎〕（道会議員）、蕪沢〔堅次〕政治局員等出席して懇談会をひらき、北海道は一本でゆくことを確認する。

1月21日〔土〕

オール道庁組合大会が北大講堂にて開催され、道連より永井勝次郎氏、メッセンジャーを送る。

—以上—

日本社会党北海道支部連合会期間報告

1950年1月29日より同年2月13日に至る間の日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の通り報告いたします。

記

1月29日〔日〕

第十一回拡大執行委員会を開催す。

執行部	横路〔節雄〕書記長、政治局員、役員他十四名
執行委員	網走支部前田貞治他十一名
大会代議員	小鴨義雄他七名
支部代表者	釧路支部堀井利勝他三十名

以上参集し種々討議を交す。協議事項及び決定事項左記の通りである。

（一）第五回大会報告の件 横路書記長

第五回大会情勢報告の後質疑応答あり。左記の如き論議過程を辿り声明書を発し、更に党内結束を固くす。

- 一、吾々は第四回大会の決定が正しかった事を承認し、その過程の中から党を再建して来た事を率直に認める。
- 二、第五回大会で決定した綱領及運動方針を、今後の斗争方針として確認する。
- 三、従つて最後まで大会を守った代議員の行動を満場一致で承認した。
- 四、今回の分裂は派閥抗争の延長であると認め、その結果が分裂に導いたものであると認定する。
- 五、よつて今後について、吾々は日常斗争を通じて党が速やかに統一され一本化するものと信じ一日も早く勤労大衆の政治安定勢力を確立しなければならぬと考へ、これに努力する。

右五項目の基本的方針による声明書を内外に発表した。なほ、党の一本化につ

いての道連の具体的方針については次期執行委員会に持ちこされることになった。

(二) 民主協議会脱退について。

笠島〔保〕政治局員提案説明。民主協議会運営その他について経過を考えると、勤労大衆を守り得る組織であるとは考えられなくなった。今日の段階として、北海道に於ける共産党の影響を排除した民主的な労働戦線統一の胎動が見られている。民協脱退を即時行ひ、全努力を以て道に於ける日常斗争を行ふ事が肝要であるとして、こゝに異議なく民主協議会脱退を決定す。

(三) 道連定期大会期日決定の件。

準備の点等あり大体3月10日前後にやる事に決定す。

1月31日〔火〕

道連庶務発第四三号を以て、北海道民主協議会事務局長・山田長吉氏宛「民主協議会脱退通告書」を発す。

2月12日〔日〕

第十二回執行委員会を開催す。

執行部 荒〔哲夫〕委員長 横路〔節雄〕書記長他政治局員及役員

執行委員 当麻支部 恵本利也他十二名 傍聴者七名 計三十名参集す。

協議及決定事項は左記の通りである。

(一) 党統一促進についての道連の具体的態度について

イ、第五回大会成立を承認し、北海道連は大会を守った本部に関連を持つことを確認した。

ロ、党費の納入については大会を守った本部に納入することを確認した。

ハ、道連が主体となり全国県連代表者会議開催を提唱することを諮り決定す。

二、社会党再建全国準備会について。

和田敏明氏の配布せる「社会党再建全国準備会より社会党の良心的なる同志諸君に訴ふ」といふ文書につき和田氏の説明を求め、質疑応答あり。社会党道連は〔1月〕29日の執行委員会で決定した基本方針に基き行動するものにして、かゝる「社会党再建全国準備会」なるものは分派行動であり、和田氏の反省を促し、和田氏一身上については二、三日中に態度を表明することとなる。

(二) 選挙対策委員会設置について

横路書記長より参議院選挙について道内の情報説明あり。道連内に選挙対策委

員会■■■■■■■■■■異議なく決定し、委員の選任については政治局で人選し来る執行委員会にて承認を得ることと決定す。

（三）室蘭輪西労組の争議について

第十二回執行委員会の名によつて激励電報を打つことを提案。異議なく決定す。

以上

日本社会党北海道支部連合会

参議院議員候補者について報告の件

日本社会党北海道支部連合会に於いては、1949年10月25日に開催された第八回拡大執行委員会に於いて若木勝蔵氏、木下源吾氏の兩名を参議院議員候補者として推選することに決定した。10月30日道連庶務発第三四号を以て本部に公認申請を行つた。若木、木下両氏は北海道選出の参議院議員である以外に、道連に於ける特別の地位は無い。

日本社会党北海道支部連合会期間報告

1950年2月15日より同年2月26日に至る期間の日本社会党北海道支部連合会の（以下道連と略称）行動を左の通り報告致します。

記

2月18日〔土〕

長沼支部主催の演説会及び座談会に横路〔節雄〕書記長出席し、共産党批判ならびにこれに伴ふ国内情勢分析及び社会党の中央情勢につき、約一時間演説す。終つて党員の座談会にのぞみ約四十名の同志と隔意なき意見の交換をなす。

2月19日〔日〕

岩見澤市に於いては道連でかねてから立案中の炭礦支部協議会の結成が行はれ、道連より葦沢〔堅次〕政治局員他、境〔一雄〕中央委員、喜多〔幸章〕統制委員等の役員もふくめて六名、各炭礦支部より代表者約二十五名、が参集し、機構の確立、運営の方針等につき討議した。役員は左記の通りである。

協議会議長 佐藤嘉雄（上砂川支部） 副議長 湯田倉治（弥生支部）

事ム局 高橋恒夫（道連）

2月18日〔土〕より21日〔火〕まで

境〔一雄〕中央委員及小嶋〔義雄〕三笠支部書記長は、三笠、幾春別、新幌内、弥生等を巡回し、懇親会、座談会をかねつゝオルグ活動をなす。

2月21日〔火〕

琴似支部にて拡大執行委員会が開催され横路〔節雄〕書記長出席す。

2月23日〔木〕

大夕張支部が結成され道連より札幌支部所属の吉田清をオルグとして派遣す。役員は左記の通りである。

支部長 阿部竹松 書記長 佐藤義衛

2月26日〔日〕

〔午前〕一〇時より道議会・社会党控室に於いて第十三回執行委員会を開催す。道議側 荒〔哲夫〕委員長、横路〔節雄〕書記長、蕨沢〔堅次〕政治局員執行委員 八雲支部三澤正男他二二名参集し、協議決定事項は左記の通りである。

一、党統一促進について

北海道連が岩手県連、青森県連に呼びかけ、三者共同提唱で3月10日前後に東北北海道ブロック会議を開催することと決定す。場所については今後研究のこととす。

一、参議院選挙対策について

さきに本部に公認申請中の現議員二名〔若木勝蔵、木下源吾〕を一名にしぼるかどうかについて議論が集中したが結論が出ず、本執行委員会の討論の過程をプリントし本部に流〔カ〕して、最後の決定は来たる3月大会に行ふ事と決定す。

一、道連大会開催について

さきに3月10日前後とほぼ決つていた大会の日取りについて、東北北海道ブロック会議の件もあり、3月19、20、21日の三日間に行ふ事と変更し、代議員の基準は党員十五名に一名と決定す。

一、さきに態度を注目されていた和田敏明氏に就き、第十二回執行委員会の決定に従はず、社会党再建全国準備会の運動を続けるといふ意志表示があつたので、和田氏一身上については統制委員会に附した上、次回の執行委員会に於いて決定することを承認した。

日本社会党北海道支部連合会期間報告

1950年2月27日より同年3月14日に至る間の日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左のとほり報告いたします。

記

3月5日〔日〕

上砂川支部拡大執行委員会が開催され、道連より高橋〔恒夫〕書記出席し、党の中央情勢の報告を行ふ。

3月8日〔水〕

赤間支部の定期大会が開催され、道連より境一雄氏出席、祝辞を贈る。

3月7日〔火〕

東京にて開催の社会党拡大中央委員会が開催され、葦沢〔堅次〕政治局員出席す。

3月11日〔土〕

東京にて開催の全国府県連代表者会議が開催され、塚本〔肇〕政治局員、櫻井〔義郎〕執行委員出席す。

（尚、〔3月〕7日の拡大中央委員会及11日の全国代表者会議に於ける決定事項及党の中央情勢については、葦沢〔堅次〕、塚本、櫻井三氏帰道の上、あらためて報告いたします）

3月12日〔日〕

進駐軍労組総蹶起大会が労働会館に於いて開催され、道連より荒〔哲夫〕委員長出席し激励のメツセージを贈る。

—以上—

社会党の各対策についての報告

日本社会党北海道支部連合会

一、労働対策

民主的労働組合の結成を目指し、全北海道労働組合協議会準備会の促進を図る。春季労働攻勢に積極的指導を行ふ。失業対策については道政に力を發揮し、道の失業対策を労働者の実権向上を目標にして確立する。

一、農村対策

農地改革の徹底、農村機械化及び電化、農業協同組合の強化、寒地農業技術

の促進等の基本方針に基き、既存の組織内に活潑な民主化運動を展開する。

一、中小企業対策

大資本に隷属して来た中小企業階級に啓蒙活動を展開し企業協同組合へ結集すべきである。金融措置としては信用保証協会、国民金融金庫〔公庫〕の活用、又、中小企業に対し税率引下運動を展開する。

一、漁業対策

新漁業法の徹底及漁業協同組合の民主化、内地漁業資本化の排除による共同経営の促進訓練、沖合漁業の振興と水産加工の一貫加工等について斗ふ。

一、婦人対策

婦人の立場向上のための諸問題、即ち①性別による差別反対、②就職の機会均等、③婦人労働者の待遇改善と社会施設の完備（母子寮、保育所等）について活発に運動を展開する。

一、文教対策

平和主義を基調とする民主々義教育の推進（例へば、学校に於ける平和教育の徹底及社会に平和思想を普及する）、及び六・三制の完全実施特に教育予算については議会で活動を行い、又、六・三予算の全額国家負担要求運動を起す。

一、道政対策

田中〔敏文〕道政を推進し、吉田〔茂〕内閣悪政の防波堤たらしめる。

日本社会党北海道支部連合会期間報告

1950年3月15日より同年4月28日に至る間の日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の通り報告いたします。

記

3月18日〔土〕。

第十五回執行委員会を道議会社会党控室に於いて開催し、道連側 荒〔哲夫〕委員長、横路〔節雄〕書記長、執行委員側 室蘭支部長谷川正治他十八名、参集す。道連第五回大会について提出議案の検討及び議事運営等につき打合せを行ふ。

3月19日〔日〕20日〔月〕21日〔火〕

道連第五回大会を札幌市民館に於いて開催す。大会第一日目出席者は、党本部より勝間田清一代議士、執行部 荒〔哲夫〕委員長、横路〔節雄〕書記長、三沢〔正男〕統制委員他十六名。代議員 日鉄支部尾崎光太郎他四九名。

当日の議事は左の通りである。

- 一、荒委員長挨拶
- 一、勝間田代議士挨拶及び中央情勢報告
- 一、木下〔源吾〕参議〔院議〕員挨拶
- 一、若木〔勝蔵〕参議員挨拶
- 一、横路書記長一般経過報告あり。質疑応答の後大会この報告を承認す。

3月20日〔月〕

大会第二日目。

出席者 執行部 荒〔哲夫〕委員長、横路〔節雄〕書記長他十九名。代議員 琴似支部竹花猛他四九名。

議事及決定事項左の通りである。

- 一、1950年度運動方針 葦沢〔堅次〕政治局員提案説明をし、質疑応答あり。大会之を承認す。
- 一、労働対策 山内〔栄治〕政治局員提案説明、質疑応答の結果、本案は不備であるとし、本大会の討論の意見をとり入れて新執行部に附託と決定。
- 一、農村対策 黒川〔留雄〕政治局員提案説明、質疑応答の結果、本案は情勢分析等不十分であるとし新執行部へ附託と決定。
- 一、中小企業対策 境一雄氏提案説明、質疑応答あり、原案通り承認可決。
- 一、漁業対策 阿部〔賢治カ〕執行委員提案説明、質疑応答の後、原案通り承認可決。
- 一、婦人対策及文教対策 塚本〔肇〕政治局員提案説明、大会之を承認可決。
- 一、道政対策 横路書記長提案説明あり、質疑応答の後新執行部に附託〔託〕と決定。

尚、支部提出議案として提出又は採択されたもの次の通り。

- 一、和田敏明氏除名の件 日鉄支部
本議案は保留と決定。
- 一、税金対策に関する件 札幌支部

本案は採択と決定。

一、ドック争議支援に関する件 函館支部

本案採択と決定。

3月21日〔火〕

大会第三日目。

出席者 執行部 荒〔哲夫〕委員長、横路〔節雄〕書記長他十九名。代議員
札幌支部日吉良一他四十三名。

当日の議案及決定事項左の通りである。

一、〔昭和〕25年度道連予算について横路書記長提案説明し、大会之を原案
通り可決。

一、参議院選挙対策について横路書記長提案説明し、討論の結果、現議員二
名のうち一名をしほり木下源吾氏を公認候補として公認申請をすること
と決定す。

次いで木下源吾氏より挨拶あり。

次に役員選挙を行ひ、新役員を左の如く決定す。

委員長 荒哲夫 書記長 横路節雄

統制委員 喜多幸章、三沢正男、正木清、永井勝次郎、西村武夫

次いで大会宣言起草委員会によつて成つた宣言を境一雄氏^{〔ママ〕}境一雄氏堂々と宣言
し、荒委員長の挨拶あり。

三日間にわたつた大会を終了す。

^{〔ママ〕}**2月24日〔3月24日〔金〕カ〕**

十二時半及び〔午後〕二時。全商工石炭局分会及全商工通産局分会に於いて資
金ベース改訂総蹶起大会が開催され、横路〔節雄〕書記長激励のメツセージを
送る。

^{〔ママ〕}**2月25日〔3月25日〔土〕カ〕**

砂川町東洋高压労組に於いて各政党立会演説会が開催され、境一雄氏出席す。

同日〔3月25日〔土〕カ〕

三菱美唄労組賃金ベース改訂総蹶起大会開催され、笠島〔保〕政治局員出席す。
聴衆約一、五〇〇名。

吾党は国会共斗の立場で斗つて来たが、今後も密接に連絡しつゝ、要求を貫徹せ
ねばならぬ旨強調した。

同日〔3月25日〔土〕カ〕

幾春別労組総蹶起大会開催され、正木〔清〕統制委員出席す。聴衆約八〇〇。労働者の生活を団結と斗争を以て守れと強調す。

3月27日〔月〕

北教組年次大会が札幌市民〔会〕館に於いて開催され、横路〔節雄〕書記長メッセージを送る。

日本社会党北海道支部連合会期間報告

1950年3月29日より同年4月14日に至る期間の日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の通り報告致します。

記

3月29日〔水〕

道議会社会党控室に於いて第一回道連選挙対策委員会を開催し、責任者を左の如く決定す。

道連選挙対策委員長 荒哲夫。参院選挙対策委員長 境一雄。同事務長 平野晁。第一区関係対策委員 阿部賢治。第二区関係対策委員 若月弥一。第三区関係々々 櫻井義朗。第四区関係々々 原野米作。第五区関係〔対策委員〕永井勝次郎。

同日〔**3月29日（水）**〕

道炭協会議室に於いてメーデーに対する懇談会が開催され、高橋〔恒夫〕書記が出席す。提唱団体は、電産、全鉱北連、北労会議、北教組その他である。統一メーデーを目標とし実行方法について論議されたが結論が出なかつた。

4月3日〔月〕 4日〔火〕

社会党統一臨時大会が東京に於いて開催され、横路〔節雄〕書記長他七名が道連代議員として出席す。決定せる役員は左記の通りである。

委員長空席。書記長 浅沼稻次郎。会計 下條恭平。

なほ道連関係の役員は次の通りである。

中央執行委員 木下源吾。統制委員 正木清。会計監査 森三樹二。

4月5日〔水〕

道炭協会議室に於いてメーデー実行委員会が開催され、道連よりオブサーバ〔一〕として林〔??〕書記が出席す。

出席団体は道炭協、北労、電産、北教組、私鉄その他。

「平和と独立のメーデー万才！」その他七本のスローガンを決定す。

4月9日〔日〕

道議会社会党控室に於いて第一回支部代表者会議を開催す。

道連側 荒〔哲夫〕委員長 横路〔節雄〕書記長 他政治局員三名。

執行委員 留萌支部 後藤秀雄他七名。

支部代表者 滝川化学 松井光男他十四名出席す。

横路書記長より臨時大会についての報告あり。本会議は道連代議員の大会に於ける態度を承認す。

次いで和田敏明氏に関する統制問題について経過報告をなし、種々討議が行はれたが、和田敏明氏の出頭を求めた上、統制委員会を開催し決定することを承認す。なほ、4月20日に統制委員会を開催と決定す。

参院選挙対策については横路書記長より道内情勢の報告あり。選挙対策委員会の構成について説明の後、資金の問題その他について討議す。具体的活動は選挙対策委員会に委せる事と決定す。

4月10日〔月〕

三笠町幾春別砒組合大会に道連より渡辺和歌子書記出席し、男子組員並に活動する婦人組員を激励し、全力をあげて大衆の敵と斗ふことを強調してメッセージとなす。

以上。

日本社会党北海道支部連合会期間報告

1950年4月15日より同年4月28日に至る間の日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の通り報告いたします。

記

4月15日〔土〕

〔午〕后二時より日通会館に於いて炭労協提唱の参議院選挙対策についての懇談会が開催され、道連より葦沢〔堅次〕政治局員出席す。

道内情勢の分析として、自〔由党〕一名～二名、農協〔農民協同党〕一名、民主〔党〕一名、民主戦線側一名～二名が当選確定、との見通しの上に立ち、現在

民主戦線側五名の立候補者が予定されているが、濫立を防止して、当選を確実にするため、五名の候補を二名に圧縮する事について討議を行ふ。結論は出ず、次回の懇談会に持ちこす事とす。

4月18日〔火〕

全鉦北連婦人青年部代表者会議が市民会館に於いて開催され、道連より蕨沢〔堅次〕政治局員出席してメツセージを送る。

4月19日〔水〕

第二回の炭労協提携の参院選挙対策についての懇談会が開催され、道連より横路〔節雄〕書記長が出席する。

民主戦線側の五名の候補者をいかにして二名に圧縮するかについて、各候補者の推選母胎たる団体、政党より意志表示を行い、種々討議を重ねたがまとまらず、社、共、労、北炭職組、北教組に□□〔横路カ〕が時間の余裕を与へ、次回の懇談会に於いて発表する事と決定した。

4月23日〔日〕

道連第二回支部代表者会議を道議会社会党控室で開催す。

道連側 横路〔節雄〕書記長、境〔一雄〕組織局長他九名。

出席支部 十九支部二十九名。合計三八名参集す。

参院選挙対策を議題に活潑な討論が行はれたが、決定事項は左記のとほりである。

- 一、道連は3月の大会で今次参議院選挙に木下源吾氏を公認申請した。しかるに本日、東京本部より木下・若木〔勝蔵〕二名を公認したといふ電報が入つた。しかし道連はあくまで3月の大会の決定どほり木下源吾一本でゆく。このために道連は強力な統制と組織の力で斗いを進める。
- 二、本部の若木氏公認は道連の決定を無視したものであり、下部組織の意向と離反している。道連はかゝる本部の決定に対して嚴重な抗議を申入れると同時に公認取消を要求する。
- 三、このために、〔4月〕28日に東京に於いて開催される中央委員会に出席する荒〔哲夫〕委員長、境中央委員をして、本部に対し強力な申入れを行はしめ、本支部代表者会議の名に於いて決議文を手交する。
- 四、その後の対策については、中央委員（荒、境両氏）の帰札を待ち、緊急に執行委員会と選挙対策委員会を開催して態度と対策を決定する。

4月24日〔月〕

道労働会館に於いて社、共、労の代表者の参院選挙対策についての懇談会を開催する。

労農党は塚田〔庄平〕氏を入党せしめ山田〔長吉〕氏の立候補をとり下げる事につき意志表示あり。共産党との間に激論あり。結末を〔翌〕25日の炭労提唱の懇談会に持ちこむ事とする。

4月25日〔火〕

〔午〕后二時より、炭労協主催の選挙対策懇談会に笠島〔保〕政治局員出席する。前回の三党会議の結果もまともならず、二名に圧縮することは困難になった。このまゝの体制で選挙にのぞむは遺憾とし、炭労協の代表者が各政党を廻り、更にもう一度の会合をもつべく努力する事となり散会する。

—以上—

日本社会党北海道支部連合会期間報告

1950年4月29日より同年5月21日に至る期間の、日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の通り報告いたします。

記

5月1日〔月〕

札幌市に於ける第二十一回メーデー大会に、道連より木下源吾中央執行委員メッセージを贈る。道連横路〔節雄〕書記長以下政治局員、書記局員、一同メーデーのデモ行進に参加す。

尚、夕張地区に於けるメーデー大会に大平郁二氏を派遣し、上砂川地区に於けるメーデー大会には喜多〔幸章〕統制委員を派遣し、それぞれ道連よりのメッセージを送つた。各支部所在の地区に於いてはそれぞれ支部長、書記長が参加した。

5月3日〔水〕

三井美唄支部再建準備会が持たれ、道連より大平郁二氏をオルグとして派遣、社会党の運動方針その他について活潑な討論を行つた。

同日〔5月3日（水）〕

社会党岩見沢支部に於いて炭礦職場支部協議会が開催され、道連より葦沢〔堅次〕政治局員参加す。参院選挙戦を目前に控えて、炭礦職場支部相互の連絡強

化、宣伝活動の増大、その他具体的方針について討議研究をなす。

5月4日〔木〕

木下〔源吾〕選挙事務所を札幌□〔市カ〕南二条西五丁目に開設す。責任者を境一雄、事務長を平野晁とし、選挙活動に入る。木下候補は、選挙対策委員会決定による日程に従ひ全道遊説に入る。

5月8日〔月〕

北海道炭礦労組協議会の大会が開催され、道連より横路〔節雄〕書記長出席しメツメッセージを送る。道炭協に於いては今回の参議院の候補として、塚田庄平、木下源吾、杉ノ原舜一を推選と決定した。

5月12日〔金〕

前労働大臣加藤勘十氏来道す。小樽、旭川等に於いて街頭演説をなす。札幌にて参院全国区候補塩谷信雄氏と合流、街頭演説を二ヶ所行ふ。夜七時より西創成学校に於いて開催の演説会に、道連横路〔節雄〕書記長、加藤勘十氏、塩谷信雄氏、それ〴〵自由党の失政を衝いて今回の参院選挙の意義を強調し、市民の協力を求めた。

5月13日〔土〕

加藤勘十氏、塩谷信雄氏は、夕張に於いて数ヶ所街頭演説を行い、木下源吾氏の推選と社会党に対する夕張市民の支持を熱望した。

5月14日〔日〕

加藤〔勘十〕、塩谷〔信雄〕氏一行は上砂川町に入り、上砂川支部の主催で開催された演説会に臨み、木下〔源吾〕候補に対する町民の支援及び国会に勤労者の代表を送らねばならぬ意義を強調した。

5月15日〔月〕

函館発、加藤勘十氏のみ退道した。

5月17日〔水〕

参議院議員党本部機関紙局長 金子洋文氏来道す。18日函館支部主催の演説会、19日室蘭支部主催の演説会、20日苫小牧の街頭、21日夕張地方協議会の街頭及演説会に出席し、木下源吾氏推選及び社会党に対する勤労大衆の支持を要望した。

5月19日〔金〕

砂川町豊沼の東洋高压支部の大会が開催され、山内〔栄治〕政治局員が道連より激励のメツメッセージを送つた。

5月21日〔日〕

三井美明支部の再建大会が行はれ、道連より西村〔武夫〕統制委員を派遣し組織方針等指導を行ひ、又選挙対策についての具体斗争方針等協議す。

5月21日〔日〕

幌内炭礦労組主催の立会演説会に、道連より横路〔節雄〕書記長出席す。

5月21日〔日〕

札幌支部主催演説会を苗穂工機部前に於いて開催し、横路〔節雄〕書記長出席し、木下源吾推選の演説をなす。

日本社会党北海道支部連合会期間報告

1950年5月22日より同年6月14日に至る期間の日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の通り報告します。

記

荒〔哲夫〕委員長は選挙も終盤戦に入ろうとするに当つて党の組織強化及び党支部との各種打合せのため左の日程により出張した。

5月22日〔月〕

旭川に於いて演説会及党支部との打合せをなす。

♪ 23日〔火〕

遠軽に於いて支部党员との懇談会を持つ。

♪ 24日〔水〕

北見に於いて演説会及び党支部との打合せをなす。

♪ 24日〔水〕

同日夜網走に於いて党支部役員会を開催す。

♪ 25日〔木〕

午前中網走に於いて演説会を開催し、夜釧路に於いて党员と懇談会を持つ。

♪ 25日〔木〕

午前中釧路の各労組を訪問挨拶をなし、夜は帯広にて演説会ならびに支部との懇談会を持つ。

♪ 27日〔土〕

午前中帯廣の各労組を訪問挨拶をし帰札す。

田中〔敏文〕知事は道政報告のため左の日程により全道各地を遊説した。

5月24日〔水〕

午前中岩見沢に於いて、午後は夕張に於いて街頭演説会を開催す。

♪ **25日〔木〕**

室蘭、輪西、幌別に於いて街頭演説を行ふ。

♪ **26日〔金〕**

伊達、長萬部、函館に於いて街頭演説を行ふ。

♪ **27日〔土〕**

旭川に於いて街頭演説会を開催す。

♪ **28日〔日〕**

午前中北見及び遠軽に於いて、夜は根室に於いて街頭演説会を行ふ。

♪ **29日〔月〕**

駅の停車中の時間を利用し斜里に於いて演説をなす。夜釧路にて街頭演説会開催す。

♪ **30日〔火〕**

帯廣市内二ヶ所にて街頭演説を行ふ。

5月31日〔水〕

札幌市内四ヶ所にて街頭演説会を開催す。

6月2日〔金〕

小樽市内五ヶ所にて街頭演説会を行ひ、夜余市にて街頭演説を行ふ。又琴似町にて街頭演説をなす。

6月3日〔土〕

江別にて街頭演説を行ふ。

以上の日程による各演説会は各地共盛況を極め、三大政策、即ち電源開発、農村施策、社会政策の推進に対する道民の理解と関心を深め、北海道開発庁に対する知事〔田中敏文〕の抱負を批〔披〕瀝し、この多忙な日程の間にも道政に対する下部の意見が道民知事に浸透し、その効果は実に大なるものがあつた。

横路〔節雄〕書記長は選挙の最後の勝利を得るため、党支部激励及組織強化のため、左の日程により道内各地に出張した。

5月25日〔木〕

室蘭、伊達に於いて田中〔敏文〕知事と同行、演説会に出席す。

◇ 26日〔金〕

長萬部、函館を田中〔敏文〕知事と行動を共にす。

◇ 27日〔土〕

森〔町〕に於いて街頭演説、及八雲にて街頭演説会を行ふ。統制委員三沢正男氏も演説会に出席す。夜支部黨員と懇談会を持つ。

◇ 28日〔日〕

余市及小樽にて演説会及支部懇談会を行ふ。

◇ 29日〔月〕

帰札。

◇ 31日〔水〕

田中〔敏文〕知事と行動を共にし、札幌市内四ヶ所にて道政批判演説をなす。

6月2日〔金〕

田中〔敏文〕知事と同道、余市、琴似、小樽にて演説をなす。

6月3日〔土〕

田中〔敏文〕知事と同道、江別にて道政批判演説をなす。

6月4日〔日〕

参議院議員選挙投票日、道連にては零時を以て一切の選挙斗争を終結した。

6月5日〔月〕

社会党公認地方区参議院議員に、木下源吾氏は一八一、五五四票を以て第一位に当選した。又、社会党公認として北教組を基盤に独自の選挙運動を展開してゐた若木勝蔵氏は一七二、五六三票を以て第三位にて当選した。

日本社会党北海道支部連合会期間報告

1950年6月15日より同年6月28日に至る期間の日本社会党北海道支部連合会(以下道連と略称)の行動を左の通り報告します。

記

6月18日〔日〕

道連第三回支部代表者会議を道会第一議員室にて開催する。

出席者は、道連側 荒〔哲夫〕委員長、横路〔節雄〕書記長他七名、支部代表者 北見支部関田伸男、他三十四支部五六名集合する。

報告事項及び協議事項は左の通りである。

一、参議院議員選挙経過報告 横路〔節雄〕書記長

北教組と調停を□□〔とりカ〕つゝ最後まで斗つたが、木下〔源吾〕氏一位、若木〔勝蔵〕氏三位といふ勝利に終わったのは、金属、全鉱連、炭協等、職場組織の協力の結果であることを確認した。

一、会計報告 平野晁氏

選挙に関する収入支出について報告した。

一、荒委員長挨拶

一、境〔一雄〕選挙事務長挨拶

次いで日本共産党首脳部追放問題について討論を行ふ。

但しこ〔カ〕の問題については本部より正式文書がないため、新聞の発表を参考資料として討論し、結論は出さなかつた。

6月28日〔水〕

国鉄第八回定期大会出席のため、浅沼〔稲次郎〕本部書記長が来道す。

日本社会党北海道支部連合会期間報告

1950年6月29日より同年7月14日に至る期間の日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の通り報告します。

記

6月29日〔木〕

登別温泉町にて開催中の国鉄労組第八回定期大会に浅沼〔稲次郎〕本部書記長、横路〔節雄〕道連書記長が出席しメッセージを贈る。

6月30日〔金〕

道連第三回拡大執行委員会を午前十時半より北海道議会第一委員室にて開催す。出席者。

本部側 浅沼〔稲次郎〕書記長、田中〔稔男〕組織部長、岡田〔宗司〕参議院議員。

道連側 荒〔哲夫〕委員長、横路〔節雄〕書記長、他七名。

執行委員及道連役員 太田益夫氏他□名。

支部代表者 赤間支部 中野利夫他二十二支部二十四名。

本部報告事項として

一、浅沼書記長本部報告

参院選挙の報告と批判、ならびに講和問題に対する社会党の基本的態度について、全面講和の促進、戦争防止、世界平和の確立といふ方針を強調した。

一、田中組織部長 対共産党問題について。

共産党は暴力政党にて、日本共産党でなくして国際的従属性を明らかにした所に今回の追放がある。しかし政府にも立憲的でない所あり、例へば国鉄裁定の否定等。これに対し共産党も憲法否定で対抗するといふ考に、社会党は反対するものである。

憲法を無視し、権力を以て結社禁止、非合法化するといふこと、及び共産党弾圧の名の下に民主的労組をも圧迫する傾向に対しては反対である。大衆を共産党に走らせることなき経済政策の樹立、失業反対運動の展開こそ吾党の任務である。

一、岡田宗司氏、農村問題情勢報告。

農村^(ママ) 籾格の下落や金融の問題にからんで農村経済の深刻化に対し自由党及現政府の農村政策の守るべきものないことを批判し、日本農業は一本立の経営困難な点を指摘し、社会党の農村政策である所の国家の手による社会主義的農業政策を以て対処すべきことを強調した。

次いで議案として、

一、政治局員任命の件

横路書記長提案説明。政治局員が空席の所、平野晃氏、宮島敏雄氏、笠島保氏、葦沢堅次氏の四氏の任命を決定した。

以上を以て拡大執行委員会を終了す。同日五時半より□□□〔駅カ〕前広場にて浅沼書記長の時局批判演説会を開催し、聴衆千名。盛会であつた。

7月1日〔土〕

午前十時より道議会内社会党控室に於いて労組内の有志と浅沼〔稻次郎〕書記長との懇談会を持つ。講和問題に対する党の対応及共産党幹部追放問題等について懇談を交はす。

同日^(ママ) 午後一時より、農協党幹部・東隆氏、工藤平悟〔カ〕氏、塩尻〔カ〕五郎氏等と浅沼、岡田〔宗司〕、荒〔哲夫〕、横路〔節雄〕氏等との懇談会をもつ。

7月2日〔日〕

北教組中央委員会が札幌市民〔会〕館にて開催され、道連より荒〔哲夫〕委員長

がメツセージを贈る。

日本社会党北海道支部連合会期間報告

1950年7月15日より同年7月28日に至る期間の日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の通り報告いたします。

記

7月13日〔木〕

三笠支部の定期大会が開催され、道連より境〔一雄〕統制局長が出席し当面の運動方針につき討論を□□。

7月23日〔日〕

帯廣にて社会党十勝青年部連合会の結成大会が開催され、道連より横路〔節雄〕書記長及び林〔??〕書記出席す。

池田支部、遠別支部、新得支部、十勝清水支部の各青年党員約二十名参加す。役員決定は左の通りである。

委員長 高橋博信（帯広支部） 副委員長 吉田□（池田支部）

7月24日〔月〕

北見紋別支部再建大会が開催され、道連より平野〔晁〕政治局員が出席し支部再建の具体的方針につき協議する。役員改選の結果は左の通りである。

支部長 吉沢孝作 書記長 佐野法幸

7月25日〔火〕

東幌内炭砒の争議の指導のため韭沢〔堅次〕政治局員、石井〔??〕書記、美流渡支部に出張す。

7月27日〔木〕

農民同盟なる□□〔農カ〕協主催の釧路農民大会に、横路〔節雄〕書記長出席し祝辞を述べる。

日本社会党北海道支部連合会期間報告

1950年7月29日より同年8月28日に至る期間の、日本社会党北海道支部連合会の（以下道連と略称）行動を左の通り報告いたします。

記

8月6日〔日〕

道連第四回執行委員会を開催する。

出席者

道連側 横路〔節雄〕書記長。平野〔晁〕、宮島〔敏雄〕、笠島〔保〕、蕪沢〔堅次〕各政治局員。渡辺〔和歌子 or 國於〕、石井〔? ?〕各書記。

役員 三沢〔正男〕統制委員他二名。

執行委員 櫻井〔義郎〕函館支部選出執行委員他六名。

支部代表者 阿部賢治（小樽支部）他十三支部二十四名。

提出議案及決定事項は左の通りである。

(1) 平和運動推進について 蕪沢政治局員提案説明。

吾党の基本方針として、①如何なる理由の戦争にも反対する、②非武装国家日本は講和後に於いて国際的協約によつて不可侵の保障をな^{〔マ〕}さるべきである。軍事基地は要求さるべきでなく拒否すべきである。③平和を守る運動は観念的な理論の問題のみでなく、あくまでも当面の経済危機突破斗争の實踐の中より展開すべきである。

以上の方針を承認可決した。

(2) 経済危機突破斗争について 平野政治局員総括提案。

(イ) 労働組合対策について 笠島政治局員提案説明

(ロ) 中小企業対策について 宮島政治局員提案説明

(ハ) 漁村対策について 蕪沢政治局員提案説明。

吉田〔茂〕内閣の経済政策の失政による国内の経済危機を打開するためには、社会主義政策を強力に推進しなければならない。それへの部内に於ける具体的対策を提出決議通り一括可決す。

(3) 青年部再建に関する件 蕪沢政治局員提案説明

一時中絶していた青年部も参院選挙後活潑化して来たので、再び道連内に青年部を設置する事と決定す。

(4) 本部遊説隊来道の件 横路書記長提案説明

片山哲、加藤勘十、三宅正一氏等を中心とする本部の遊説隊について、道連では道内各地に演説会を開催し、活潑な宣伝啓蒙運動を展開する事とす。

（5）選挙対策に関する件 平野政治局員

選挙に関する道連の基本方針を提案通り承認可決す。

8月13日〔日〕

札幌支部第五回定期大会を市民会館に於いて開催す。出席者三十八名にて大会成立す。役員改選の結果は左の通りである。

支部長 正木清 副支部長 平野晁、斎藤喜太郎
書記長 笠島保 会計 渡辺和歌子

8月14日〔月〕

美流渡支部大会開催され、蕪沢〔堅次〕政治局員出席し祝詞を述ぶ。

8月27日〔日〕

手稲支部が結成され、道連より横路〔節雄〕書記長出席す。役員決定は左の通りである。

支部長 高橋良。 書記長 中村〔? ?〕。

以上

日本社会党北海道支部連合会期間報告

1950年8月29日より同年9月25日に至る期間の、日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の通り報告致します。

記

社会党前執行委員長 片山哲氏、国会対策委員長 三宅正一氏、組織局長 加藤勘十氏、参議院議員 赤松常子女史、衆議院議員 門司亮氏等本部遊説隊は大挙来道し、三班に分れて左記の日程により道内各地に演説会を開催した。

〔加藤・赤松班〕

8月28日〔月〕

加藤〔勘十〕組織局長、赤松常子女史等は一班として函館着。函館支部主催の労組懇談会にのぞむ。

8月29日〔火〕

加藤〔勘十〕赤松〔常子〕班留萌着。留萌支部主催の演説会にのぞむ。

8月30日〔水〕

加藤赤松班、深川、滝川を経て赤平着。赤間支部主催の演説会に出席す。又、

支部党员懇談会にのぞむ。同日夜芦別着。芦別支部主催の演説会に出席す。

8月31日〔木〕

加藤赤松班、上砂川着。支部主催の演説会に出席す。

9月1日〔金〕

加藤赤松班、美唄着。三井美唄支部主催の演説会に出席す。同日、岩見澤を経て美流渡に入り、支部主催の演説会に出席す。加藤氏のみ三笠に入り、弥生支部主催の演説会に出席す。赤松常子氏は札幌に直行す。

9月2日〔土〕

岩見沢、栗山を経て夕張着。夕張支部主催の演説会に出席す。加藤氏の他、境〔一雄〕道連組織局長も出席す。

9月3日〔日〕

加藤氏札幌着。道連青年部再建大会が札幌市民会館にて開催され、加藤組織局長出席す。同日、赤松常子参議は札幌支部有志婦人党员との懇談会を持つ。又、帝国繊維の寄宿舍を訪問、女子工具と懇談会を持つ。

9月4日〔月〕

赤松女史、加藤組織局長帰京す。以上を以て加藤班の遊説終了す。

〔片山・門司班〕

9月2日〔土〕

片山〔哲〕前委員長、門司亮代議士は第二班として来道、函館支部主催の演説会にのぞむ。

9月3日〔日〕

片山門司班は森〔町〕に於ける演説会に出席し夜八雲着、八雲支部主催の演説会に出席す。

9月4日〔月〕

片山門司班は札幌着。札幌支部主催の党员懇談会に出席し、夜は演説会にのぞむ。道連書記長横路節雄氏、支部長正木清氏も演説を行ふ。

9月5日〔火〕

片山門司班は江別支部準備会主催の演説会に出席し、夜小樽着。小樽支部主催の演説会に出席す。

9月6日〔水〕

片山門司班は倶知安に於ける演説会及び伊達に於ける演説会に出席す。

9月7日〔木〕

片山門司班は室蘭に於ける演説会に出席す。

9月8日〔金〕

片山門司班は登別に於ける演説会及党員懇談会に出席す。

9月9日〔土〕

片山門司班は上磯町に於ける演説会に出席す。

9月10日〔日〕

片山門司班、帰京す。以上を以て片山門司班の遊説を終了す。

〔三宅班〕

9月2日〔土〕

三宅正一氏来道し道連役員永井勝次郎氏を加えて第三班とし、函館にて党員と会談す。

9月3日〔日〕

三宅班、十勝清水着。農民同盟との懇談会に出席す。同日十勝清水支部主催の演説会に三宅氏及永井〔勝次郎〕氏が出席す。夜帯広着、帯広に於ける演説会に出席す。

9月4日〔月〕

三宅班は釧路に於ける演説会に出席す。

9月5日〔火〕

三宅班は標茶に於ける農民同盟との懇談会にのぞみ、次いで網走着。網走支部主催の演説会に出席す。

9月6日〔水〕

三宅班は北見に於ける党支部主催の演説会に出席す。

9月7日〔木〕

三宅班札幌着。道連役員との懇談会にのぞみ夜帰京す。以上にて三宅班の遊説を終了す。

9月11日〔月〕

道連続制委員会を市民会館に於いて開催す。

議案（1）和田敏明氏の件について。

過般来の決定に従い除名処分にし、この旨道連委員長に報告する。

（2）幾春別支部より具申の件について。

過日の加藤〔勘十〕赤松〔常子〕班の遊説にからんで美流渡支部が日程を破つたため、幾春別に於ける演説会が流会した事について、統制委員会の処置として、幾春別支部に対し道連遊説責任者及美流渡支部責任者より陳謝の意を表する事と決定し、その具体的方法については対外的な問題もあり、慎重に行ふ事とす。

9月21日〔木〕

社会党青年部全国執行委員会が東京都衆議院会館に於いて開催され、道連より葦沢〔堅次〕政治局員が青年部執行委員代理として出席す。

9月22日〔金〕

札幌支部執行委員会を開催し、今回行はれる教育委員選挙について、札幌支部顧問水島宜〔水島ヒサの夫〕氏を候補として道連に推選する事を決定す。次いで、各専門部の部長、副部長を選任す。

以上

日本社会党北海道支部連合会期間報告

1950年9月25日より同年10月13日に至る期間の、日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の通り報告します。

記

9月26日〔火〕

札幌市民会館にて〔道連〕統制委員会を開催。さきに具申された幾春別支部の件につき協議し、左の通り結論を出し具体的事務手続を完了す。

- （1）幾春別支部に対し、遊説責任者境一雄氏の陳謝文を郵送す。
- （2）同様、美流渡支部長及岩見澤支部書記長も陳謝文を郵送するよう指示を出す。

9月28日〔木〕

緊急選挙対策委員会を札幌に開催す。太田〔益夫〕、永井〔勝次郎〕、阿部〔賢治〕、櫻井〔義郎〕各選挙対策委員、三沢〔正男〕議員会長、荒〔哲夫〕委員長、横路〔節雄〕書記長、平野〔晁〕政治局員、葦沢〔堅次〕政治局員等参集し、教育委員選挙対策につき協議す。

諸般の情勢に依り、水島久子〔水島ヒサ〕氏を入党せしめて公認候補とする事

と決定す。

10月1日〔日〕

第五回拡大執行委員会を札幌に於いて開催す。

道連側 荒〔哲夫〕委員長他五名、党役員正木清他四名、支部代表者 美流渡支部尾形孝一他、十七支部二十名参集す。協議及決定事項は左記の通りである。

（1）教育委員選挙対策に関する件。

水島久子氏を教育委員候補に公認する事を決定した。尚、選挙事務長に永井勝次郎氏、出納責任者に平野晁氏と決定し、具体的選挙斗争は選挙対策委員会に一任す。

（2）地方協議会確立について。

支部組織強化のために全道を十二に分け、これを地方協議会とし、支部相互の連絡協議機関とする。道連は10月15日より、二班に分れて各地区にオルグ活動を展開する事とすることを決定する。

10月10日〔火〕

緊急選挙対策委員会を札幌にて開催す。教育委員選挙について具体的斗争方針につき種々協議す。

10月11日〔水〕

選挙告示行はれる。水島久子選挙事務所を札幌市南一条西四丁目一誠堂内に開設す。四丁目十字街に於いて選挙の第一声をあげ、いよ〜選挙斗争に入る。尚今回北海道では初の婦人候補である。選挙スローガンの一、二を記してをく。

- ・教育予算を増して父兄の負担を軽減せよ
- ・教育委員会に婦人の発言権を獲得しよう。
- ・男女共学の民主教育は婦人の教育委員から！

日本社会党北海道支部連合会期間報告

1950年10月14日より同年10月28日に至る期間の日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の通り報告します。

記

〔10月〕10〔11〕日告示により火プタを切つた教育委員選挙は社会党道連として水島ヒサを公認と決定し、道連一本になつて選挙斗争に入つた。

10月14日〔土〕

札幌より全道選挙遊説に廻った水島本隊（水島〔ヒサ〕候補、渡辺〔和歌子〕道連書記、境〔一雄〕組織局長の三名）は前日函館に於いて一泊し、14日函館市内各労組婦人団体を訪問、立候補挨拶を行い、十六時五分にて長万部に向い、当日は長万部泊り。

10月15日〔日〕は

長万部発〔午前〕六時五〇分にて伊達に向い直ちに室蘭へ。市内各労組、婦人団体を訪問。当日は室蘭泊り。

10月16日〔月〕

室蘭発〔午前〕八時五五分にて旭川へ向う。旭川に於いても各労組、婦人団体を訪問。当日は旭川泊り。

10月17日〔火〕

旭川を早朝立って網走へ。直ちに市内労組を訪問、立候補の挨拶を行い、網走泊り。

10月18日〔水〕

網走を〔午前〕五時五分発って釧路着十一時二二分、市内を一巡して池田に向う。池田着二一時〇七分、池田泊り。

10月19日〔木〕

池田発〔午前〕十一時五〇分にて帯広へ。帯広着十二時三十分、市内各団体に立候補挨拶を行い、二十三時三十分にて札幌に向う。

10月20日〔金〕

札幌着〔午前〕八時三十四分、一息ついてトラックにて琴似、銭函を通り小樽に。小樽市内をトラックにて一巡し、二十一時頃札幌に帰へる。当日は札幌泊り。本日をもって、境〔一雄〕組織局長と道連横路〔節雄〕書記長を交代する。

10月21日〔土〕は

トラックにて札幌市内及び道庁通産局等に挨拶廻りして札幌泊り。

10月22日〔日〕

選挙もいよゝ中盤戦に突入したので、いよゝ水島本隊も選挙演説を始める。一般の観心（マツ）が極めて薄いので、選挙啓蒙に重点をおく。午後五時半より選挙事務局所に於いて党員労組代表会議を開催せしが、集合人員が三名の為流会す。

10月23日〔月〕

本日より境〔一雄〕組織局長、小嶋〔義雄〕三笠支部書記長をもつて編成する別

動隊が出発す。札幌発〔午前〕七時三十二分にて夕張に向い、各炭礦に於いて演説又は懇談会を行う。

水島本隊は幾春別、彌生、新幌内、三笠、美流渡をトラックにて廻り、岩見沢市の立会演説会に出席して岩見沢泊り。

参議〔院議〕員木下源吾応援の為来道、直ちに本道〔本隊〕に随行す。

10月24日〔火〕

水島本隊は岩見沢発〔午前〕八時五〇分にて留萌に向う。留萌着十五時二十分、街頭演説を行い十八時よりの立会演説会に出席して留萌泊り。

別動隊は若菜辺発〔午前〕七時三五分にて大夕張へ。大夕張着十六時四十三分、街頭演説を行い大夕張泊り。

10月25日〔水〕

水島本隊は留萌発〔午前〕十時二十五分にて旭川へ。市中トラックにて一巡し、十八時よりの立会演説会に出席して当日は旭川泊り。

別動隊は大夕張発〔午前〕六時四十分にて美流渡へ。当日は美流渡に一泊す。

10月26日〔木〕

水島本隊は旭川及びその近郊、士別、当麻をトラックにてまわり、十八時よりの立会演説会に出席して旭川泊り。

別動隊は美流渡発〔午前〕六時二十八分にて三笠より幌内へ。当日幌内泊り。尚、前法務総裁鈴木義雄〔男〕が来道せし為、直ちに別動隊に編入す。尚、参議員木下源吾は本日より別動隊につく。

本隊については、25日より道連横路〔節雄〕書記長と道連政調会長永井勝次郎と交替する。亦参議員河崎ナツ応援の為来道、直ちに本隊に編入す。

10月27日〔金〕

水島本隊は旭川発〔午前〕六時五五分にて遠軽へ。遠軽より北見市トラックにて廻り、十八時よりの立会演説会に出席して北見泊り。

別動隊は幌内発〔午前〕九時十八分にて三笠より、^{〔三笠より〕}バスにて幾春別へ。当日は幾春別泊り。

道南一帯が手薄の為、葦沢〔堅次〕、宮嶋〔敏雄〕政治局員二名にてメガホン隊となり、国縫、今金、瀬棚、東瀬棚と廻り、当日は東瀬棚泊り。

10月28日〔土〕

本日をもつて函館、室蘭、網走の各選挙事ム所を閉鎖して小樽、岩見沢、釧路と交替する。

水島本隊は北見より網走にトラックにて廻り、十八時よりの立会演説会に出席して網走泊り。

別動隊は幾春別発〔午前〕六時二十分にて美唄へ。三菱・三井美唄を廻り、当日は三井美唄泊り。

メガホン隊は東瀬棚、八雲、森、軍川をかけあしでまわる。

22日流会となつた党員労組代表会議は、本日午後一時より選挙事ム所に於いて炭労、金属、全道庁の代表六名出席のもとに開かれ、選挙斗争を勝ち抜く為、特に各労組に於いても情報宣伝に乗り出し、水島〔ヒサ〕候補をすいせん〔推薦〕とする様ようせい〔要請〕した。

全道労協の結成に関しては、速やかに結成大会の運びとなる様党に於いても側面より援助する等、種々発言あった。

全般を通してみるに、未だ教育委員選挙は低調であるので、今後も啓蒙に重点を置かねばならないと痛感す。

以上

日本社会党北海道支部連合会期間報告

1950年10月29日より同年11月28日に至る期間の日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の通り報告します。

記

10月29日〔日〕

教育委員候補者水島ヒサは、応援の為来道した参議院議員河崎ナツ、道連書記渡辺和歌子と同道、網走発釧路着。釧路は春採炭砦をトラックにて廻り、夜は立会演説会に出席して釧路泊り。

10月30日〔月〕

水島本隊（水島〔ヒサ〕、河崎〔ナツ〕、渡辺〔和歌子〕）は釧路を早朝発、池田に途中下車し池田町を街頭演説^{〔ママ〕}を行ひ、正后帯広着。市内をトラックで廻り、夜は立会演説会に出席し深夜帯広発。参議員河崎ナツ氏のみ札幌に直行し、本隊は水島、渡辺のみとなる。

10月31日〔火〕

朝砂川着の水島本隊は、砂川、上砂川、美唄をトラックにて街頭演説をしつ、

廻り、美唄に於ける立会演説会に出席し美唄泊。

河崎ナツ氏は札幌着。結核予防婦人会その他民主的婦人団体の有志と共に札幌の街頭に進□〔出カ〕し、北海道唯一人の婦人候補水島ヒサ氏のために応援を行ふ。

11月1日〔水〕

水島本隊は早朝美唄発夕張に至り、若菜、鹿島、大夕張をトラックにて街頭演説しつゝ、廻り、この間夕張市に於ける二ヶ所の立会演説会に出席し、尚婦人（家庭の主婦）との懇談会にも出席す。大夕張泊。

11月2日〔木〕

大夕張発、苫小牧に至り、苫小牧、勇払をトラックにて廻り、苫小牧に於ける立会演説会に出席し、苫小牧に泊る。

11月3日〔金〕

水島本隊は苫小牧発、室蘭に至り、山中日露史前代議士等と共に市中及幌別、中島等をトラックにて街頭演説をしつゝ、廻り、室蘭に於ける立会演説会に出席し、室蘭泊。

11月4日〔土〕

水島本隊は室蘭発札幌着。札幌市内をトラックにて街頭演説をしつゝ、廻り□、この間立会演説会に出席す。

道連では、10月27日の道議会に於いて自由党の吉田〔豊吉（札幌市選出）〕議員によつてとりあげられたナンバープレートに関する問題について下部組織の動揺を防ぐため、道新〔北海道新聞〕をのぞく道内各新聞紙上に大要左の如き声明書を発表した。

- 一、今回のプレート問題については道連合会は一切これに関与しない。
- 一、党に関して金銭の授受が行はれた事実は無い。
- 一、この問題は、今回行はれている教育委員選挙を^{〔ママ〕}妨害するための自由党の陰謀である。

11月5日〔日〕

水島本隊は札幌市中をトラックにて廻り、各所に街頭演説を行ふ。又、立会演説会に出席す。

11月6日〔月〕

水島本隊は琴似、軽川、小樽をトラックにて廻り街頭演説をなす。小樽に於ける立会演説会に出席する。小樽泊。

11月7日〔火〕

水島本隊は函館着。道連書記長横路節雄同道す。函館市内をトラックで廻り、函館に於ける立会演説会に出席し、夜函館を発。

11月8日〔水〕

水島本隊は朝、江別着。街頭演説をなし〔午前〕十時に札幌着。市内をトラックにて廻り街頭演説を行ふ。

11月9日〔木〕

水島〔ヒサ〕候補及〔社会党〕道連合会はあげて総力を盡くし、札幌市内及全道各地に水島応援の運動を展開す。深夜十二時を以て一切の選挙運動を終了した。

11月10日〔金〕

教育委員選挙投票日。

11月11日〔土〕

投票の結果が発表され、道連選挙対策委員会の一ヶ月の斗争は、水島〔ヒサ〕候補の四二四、一一五票といふ最高得点となつてあらはれた。

第一位当選を祝ひ各支部より感激の祝電集るが、わけても札幌市に於ける□〔一カ〕二二、八三六票といふ数字は、昭和5〔1930〕年普選実施以来、札幌で進歩派が保守派に勝つた最初の記録として、特に有意義である。

11月12日〔日〕

道連支部代表者会議を札幌市民会館にて開催す。

道連 荒〔哲夫〕委員長他執行部八名、支部代表者 余市支部時田政次郎他二十六支部三十一名参集す。議題及報告事項その他、左の通りである。

一、追放解除となつた渡辺惣蔵前道連書記長の挨拶。

一、水島ヒサ教育委員の当選挨拶。

一、報告事項。

教育委員選挙に関する報告。

一、ナンバープレートに関する諸般の問題について。

道議会内に於ける考査委員会の委員として直接この問題にタッチしている森川〔清(室蘭市選出)〕道議より報告あり。質疑と討論が行はれたが、結論としては、議会内の考査委員会の調査が終り結論が出て後、道連としては統制委員会を発動するなり何なりの態度を決定することとなつた。

11月15日〔水〕

道連事務所を移転した。新旧事■〔務〕所左の通りである。

旧事務所 札幌市南二条西一丁目 青木方
新事務所 札幌市北大通西四丁目 三〇〔嘉カ〕ビル内

11月16日〔木〕

浅野雨竜に支部結成され、道連より荒〔哲夫〕委員長、高橋〔恒夫〕書記が出席する。役員決定は左の通りである。

支部長 佐藤平作 書記長 藪内正二

同日〔11月16日（木）〕

釧路市にて釧路地区協議会が開催され、春採、釧路、雄別、庶路等の支部の代表者が集り、地区協議会確立について討議す。議長を三輪正三と決定す。

11月17日〔金〕

本部青年部長森永栄悦氏来道し、春採支部主催の青年黨員懇談会に出席す。道連より葦沢〔堅次〕、小鴨〔義雄〕両氏出席す。

11月■■日〔？〕

庶路支部主催の青年黨員懇談会に、森永〔栄悦〕青年部長及び小鴨〔義雄〕、葦沢〔堅次〕両氏出席す。

11月26日〔日〕

豊里に於いて北空知地方協議会が開催され、道連より小鴨〔義雄〕書記出席した。参加支部は、赤平、豊里、奈井江、砂川、滝川、滝川化学の各支部である。議長を石坂幸次氏と決定し、今後の地区協議会確立について種々活動方針を討議した。

日本社会党北海道支部連合会期間報告

1950年11月29日より同年12月20日に至る期間の日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の通り報告致します。

記

12月5日〔火〕

地方公務員法制定反対労働者総蹶起大会が、道全官公共斗委員会の主催にて開催され、社会党より札幌支部所属渡辺惣藏氏が出席して、激励のメツセージを贈る。参加者総数三百余名は、地方公務員の団交権の復活、政治活動の自由、労働三法の適用等を要求する決議文を携え、上京する代表者五名を送り、札幌

駅頭までデモ行進を行った。

12月5日〔火〕

奈井江支部結成大会が開催され、道連より荒〔哲夫〕委員長、竹花〔猛〕書記が出席し祝辞を述べた。役員は、支部長及書記長 十二村吉辰^{トニムラ}と決定した。

12月9日〔土〕

労働組合内党員代表者会議を道連にて開催し、当面の諸問題について意見の交換をなす。炭労、金属、東圧その他民主的労働組合内の党員約四十名が参集した。

なほこの会議の結果、道連選挙基本方針中の一部「現議員は原則として優先して公認する」と言ふ項を削除する件について、道連の執行委員会に申入れを行ふ事となつた。

12月10日〔日〕

道連第六回執行委員会を開催す。三笠支部菅原英三郎氏他二十八名参集した。当日の決定事項は左の通りである。

一、道知事選挙対策に関する件

現知事田中敏文氏を社会党公認として再び立候補せしめる事を決定した。

一、選挙基本方針一部削除について

労代会議より申入れあり、討議の結果、この申入れを妥当とし、「現議員は原則的に優先して公認する」うんぬんの項は之を削除と決定した。

一、選挙対策委員会拡充強化について

従来の選挙対策委員会は地区より選出し総数七名であつたが、来年〔1951年〕の各種選挙にそなえてこれを強化するため、地区より十二名、労農各団体より十一名選出し、党の選挙対策の推進を行ふ事と決定した。

一、〔昭和〕26〔1951〕年度道議會議員公認数決定の件

〔昭和〕26年に施行される北海道議會議員選挙の立候補者公認数について、各市、各支庁の枠を決定した。（但しこの決定は本〔1950〕年10月1日施行の国勢調査に基いたものであつて、仄聞する所の総司令部の地方議會議員数が過剰だとする意向が具体化した場合は、再度執行委員会を開催して変更する事がある。）

一、党本部大会代議員出席代議員の決定について

明〔1951〕年1月19、20、21日の三日間開催される社会党全国大会に出席する代議員を各地区に割当て決定した。

一、北海社会新聞復刊^{〔ママ〕}に関する件

宣伝教育活動強化のため、休刊中の北海社会新聞の復刊を決定した。

12月13日〔水〕

士別支部主催社会党演説会が上川郡士別町にて開催され、折から道北地方視察中の田中〔敏文〕知事は、一党員として道政に関する演説を行い、一千余の聴衆に感銘を与えた。

12月16日〔土〕

全道労組共斗委員会準備会主催の労働者総蹶起大会が札幌市大通西七丁目広場にて開催され、道連より横路〔節雄〕書記長が出席しメッセージを贈った。

全道労協傘下の北教組他全金属等、その他^{〔ママ〕}道道庁など十数組合、約二千名の労働者が集り、賃銀引上げ、年末手当獲得、官公庁の九、七〇〇円ベース即時実施等を満場一致で可決し、道庁前までデモ行進を行ひ、「全道二十万の民主的労組の力を結集して、吉田〔茂〕内閣打倒と要求貫徹のためあくまで斗ふ」といふ内容の決議文を、知事〔田中敏文〕及道議に手交した。

12月20日〔水〕

12月18日より開催中の道炭労大会に横路〔節雄〕書記長が出席し祝辞を述べた。

日本社会党北海道支部連合会期間報告

1950年12月21日より1951年1月28日に至る期間の日本社会党北海道支部連合会（以下道連と略称）の行動を左の通り報告いたします。

記

12月24日〔日〕

石狩地方協議会を札幌に於いて開催し、石狩支庁管内の支部が集り議題として次の事を協議決定した。

- （1）支部組織の整備について、党員の登録、党費の納入を完遂する。
- （2）道会議員選挙に関しては石狩支庁管内より二名の候補者を出して斗ふこと。人名については次回に決定する。

〔1951年〕1月6日〔土〕

選挙対策に関する釧路地方協議会を釧路市に於いて開催し、釧路支部他支庁管内の五支部が参集し、道連からは平野〔晁〕政治局員が出席した。協議決定事

項は左の通りである。

- (1) 釧路市区の道会議員候補者に太田〔益夫〕現道議を推選する。
- (2) 釧路郡部については、本間〔武三〕、岡林〔歎喜〕、岩淵〔??〕三氏の名が出て、地協としては一応本間現道議を推選決定したが、最後の決定は道連に一任する。

1月7日〔日〕

選挙対策に関する北空知地方協議会を砂川町に於いて開催し、砂川支部他北空知の各支部が参集し、道連から葦沢〔堅次〕政治局員が出席した。協議決定事項は左の通りである。

- (1) 道会議員候補者について荒哲夫、榊原啓量の二氏を推選決定し、奈井江支部より推選の十二村吉辰氏については未決定であった。

1月8日〔月〕

上興郡部に支部が結成される。役員決定は左の通りである。

支部長 伊藤芳二。 書記長 日沼末吉。

1月11日〔木〕

夕張地区協議会が開催され、道連より高橋〔恒夫〕書記出席す。協議決定事項としては、夕張市選出の道会議員候補者が夕張市に二名あり、最終〔カ〕的決定は道連に一任する。

1月12日〔金〕

札幌支部執行委員会が開催され、選挙対策について協議したが、決定事項としては、

- (1) 札幌市の道議候補としては高田治郎氏を推選し、他一名は保留。
- (2) 市長については二、三の名も出たが最後の決定なし
- (3) 市議会議員についてはなほ詮考中である。

同日、石狩地方協議会を札幌市に於いて開催し、石狩郡部の道議候補として斎藤正志氏を推選し、尚あと一名は情勢を見た上で決定する事となった。

1月13日〔土〕

道連第二回選挙対策委員会を札幌に於て開催し、各地区選出の選対委員^{〔カ〕}が出席す。決定事項として、

- (1) 道議会議員の候補者を左の如く第一次公認した。

支庁名	公認者氏名
石狩	斎藤正志 他一名保留

後志	時田政次郎 外一名保留
渡島	三沢正男 他一名保留
桧山	保留
空知	荒哲夫、榊原啓量、中野定敏、他保留
上川	全員保留
宗谷	保留
留萌	保留
網走	本宮幸太郎、青木武、佐藤忠三
胆振	保留
日高	保留
十勝	保留
札幌市	高田治郎、他一名保留
小樽市	鈴木源重、他一名保留
函館市	発表を保留
室蘭市	森川清
帯廣〔市〕	保留
夕張市	保留
北見市	保留
岩見沢市	保留
網走市	保留
苫小牧市	佐瀬貞一
稚内市	保留
留萌市	武藤周三郎
釧路市	太田益夫
美唄市	保留

1月14日〔日〕

第七回執行委員会を道議会社会党控室にて開催す。協議決定事項は左の通りである。

（1）道議候補公認決定について

選挙対策委員会の報告に基き討議の結果、函館支部より推選の橋本清次郎、坂本政雄の二名、及び美唄支部推選の西村武夫の三名を加えて、十八名の人物を公認と承認決定した。

(2) 第七回全国大会出席者決定について

第七回党大会に出席代議員を左の通り決定した。

横路節雄、笠島保、渡辺惣藏、大場近信、三沢正男、黒川留雄、永井勝次郎、高橋博信。

1月16日〔火〕

全国大会出席のため横路〔節雄〕書記長他出発す。

1月27日〔土〕

大会を了へ、書記長〔横路節雄〕他一同帰札す。

〔裏表紙の裏面〕

寄贈

昭和四十年十月^{〔ママ〕}複製
社会党道連